

東小学校 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果報告

令和5年4月に6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査（国語・算数）の結果をお知らせいたします。

平均正答率(%)	国 語	算 数
東 小	56	54
神奈川県	66	63
全 国	67.2	62.5

全 体

平均正答率では、東小は国語、算数ともに正答率は全国平均、神奈川県平均と比べて低い傾向にある。2教科ともに、思考・判断・表現の内容に関する問題、選択式ではなく記述式で回答する問題が苦手である。

国 語

全体的に全国平均と比べて低い傾向にある。思考判断表現する力を対象とした問題の正答率が特に低い。

「情報の扱い方に関する事項」に関わる問題では、全国平均に近い正答率だった。その中でも、「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題は、全国平均より正答率が高かった。（全国平均 4↑）

一方で、「書くこと」に関わる問題の正答率は特に低い。「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題では、全国平均と比べて正答率が低かった。（全国平均 12.7↓）

問題形式に着目すると、記述式の問題の正答率が低くなっている。（全国平均 15.8↓）

算 数

「変化と関係」を問う問題の一つでは、正答率は94.0%を示し、県や全国平均よりも若干高かった。正方形の意味や性質を問う問題では、正答率が86%で全国平均（82.7%）に近かった。

翻って、数と計算や図形、データの活用を問う問題では県や全国平均よりも10ポイント程度低い正答率となっている。

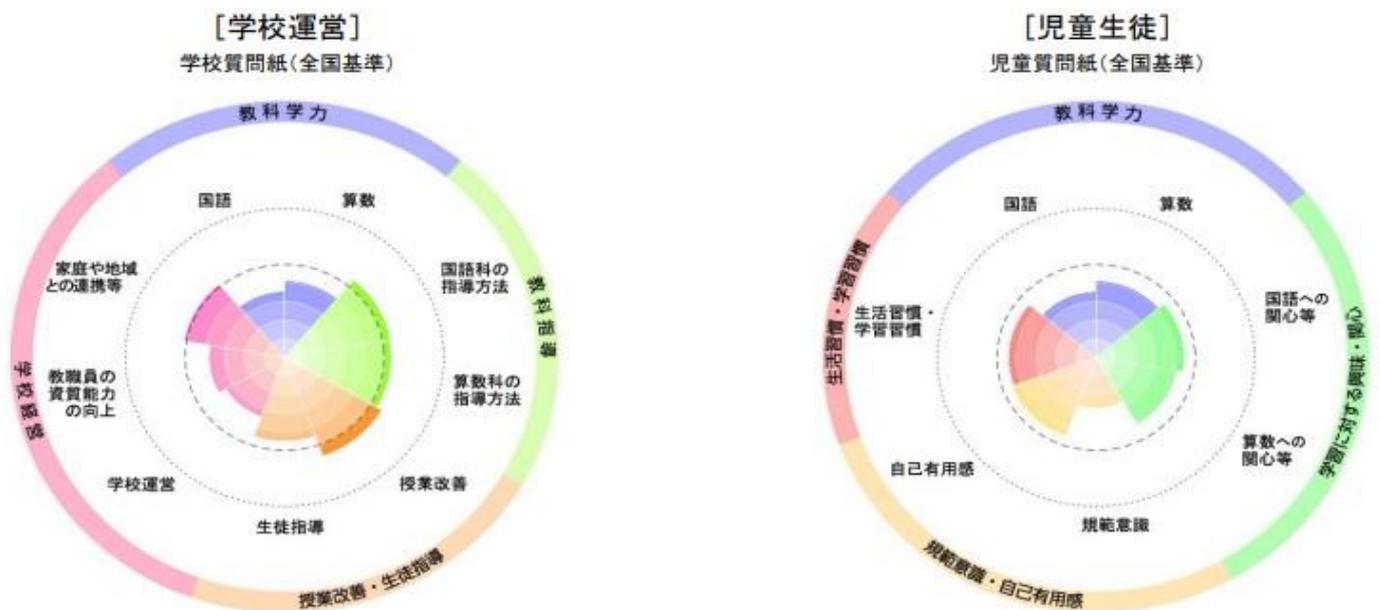
また、知識理解、思考判断表現を問う問題でも正答率全国平均より8ポイント程度低い傾向にある。

問題形式に着目すると、記述式の問題だけでなく選択式も短答式も正答率が低くなっている。

また、無答率が全国の学校の2.4倍ある。

生活習慣・学習習慣

- 「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して、約85%が「している」と回答したが、その反面、約15%の児童が「あまりしていない」や「していない」と回答した。睡眠時間なども含め、基本的習慣の向上も課題になった。
- 平日の1日当たりの勉強時間（学校の授業以外）は、約30%の児童が1時間以上2時間未満の学習、約25%の児童が「1時間より少ない」、または「全くしない」と回答した。
- 新聞等を読んでいる児童は全国と比べて高かった。特に、「毎日読んでいる」と答えた児童は10.0%で、全国平均の約2倍だった。
- 「学習の中でPCやタブレットなどのICT機器を使うには勉強の役に立つと思うか」という質問に対し、9割強の児童が「役に立つ」と回答した。
- 「学校に行くことが楽しいか」という質問に対しては、「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童を合わせると8割強になった。
- 学習に対する興味・関心は、国語・算数ともに、全国・神奈川平均よりも低い傾向にあった。（下の円グラフ参照）



今後の学校の取組

- 学習については、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書いたり（書く能力）、話し手の意図を捉えながら聞いて自分の考えをまとめたり（話す・聞く能力）する場面を授業の中で多く設けて工夫していきます。また、ICT機器を効果的に学習活動に取り入れるとともに、読書や調べ学習で図書室を有効に活用していきます。漢字や計算等の反復学習については、朝の学びたいム等を使って粘り強く取り組んでいます。
- 生活習慣については、学校説明会や地域の方々との懇談会、また各学級や学年の懇談会等で情報共有し、ご家庭や地域の協力を得ながら指導していきます。